

秋田県立秋田高等学校 中期ビジョン（5か年計画）

令和3年6月策定
令和5年6月一部改訂

I 本校が目指す姿

教育目標

- (1) **品性の陶冶** 集団の規律を遵守し、確固たる責任観念をもって自律的に行動する生徒を育成する。
- (2) **学力の充実** 真理を愛し、高い理想と旺盛な探究心をもって学習に精励する生徒を育成する。
- (3) **心身の錬磨** 心身を鍛錬し、強靱不屈の精神をもって不断に前進する生徒を育成する。

「おのれを修めて世のためつくす」 「わが生わが世の天職いかに」 (校歌より)

1 学校の現状や課題

(1) 現状

- ①「文武両道」、「自主自律」の充実
伝統校として、進学実績や部活動の活躍に対する地域社会からの期待は大きく、文武両道と自主自律を標榜する教育活動のもとで、多くの生徒がその期待にこたえている。
- ②大学進学に対応できる学力の育成
生徒の志望実現のため、深い学びを基盤とし、東北大学の入試レベルを意識した授業を展開するとともに、3年間を見通した学力向上策を学校全体で組織的に進めている。
- ③国際的な活躍を目指すグローバル教育
将来グローバル社会でリーダーシップを発揮できるよう、視野を広げる多様な経験の機会を設けるとともに、他者と協働しながら課題解決に取り組むことのできる力の育成を図っている。
- ④人間形成の視点に立ったキャリア教育と主権者教育
現代社会の課題に自らの在り方生き方を重ねながら進路を考えさせるとともに、主権者教育を通して諸課題に対する意見を主張できる生徒を育成している。

(2) 課題

- ①自主自律の精神と態度の育成
学校行事において、より高いレベルでの実現を目指す意欲を喚起するとともに、あらゆる教育活動において、生徒の主体性が発揮される場を設定し、自主自律の精神の育成に一層努める必要がある。
- ②時代に合った教育課程の設定
学習指導、進路指導、生徒指導等の各種教員研修を一層充実させ、学習指導要領改訂や高大接続等の教育改革に的確に対応する必要がある。時代のニーズや大学入試の動向を踏まえたカリキュラムの最適化を継続的に行わなければならない。
- ③異文化に対する興味・関心の昂揚
現在、県教育委員会や本校同窓会主催の海外派遣交流はあるものの、留学希望者や海外交流生の受け入れが少ないのが現状である。異文化への関心を高め、幅広い知識と教養を身に付けられるような教育活動を推進する必要がある。
- ④キャリア教育と主権者教育のより一層の充実
社会のリーダーとして活躍できる人間を育てるため、すべての教育活動を通して他者との共感性を育み、また、社会への関心を高め、諸課題を「自分ごと」として受け止め、知恵や価値を創造しながら解決に取り組もうとする力を育成する必要がある。

2 学校を取り巻く将来の状況の予測

国内（特に県内）においては人口減少や少子高齢化による生産年齢人口の減少といった課題があり、国際的には環境問題やエネルギー問題、格差の拡大等、人類共通の課題が、より顕在化することが予測される。産業構造の変化に伴い、必要な知識や技術も時々刻々と変わり、更には社会のイノベーションやICT（情報通信技術）等の進歩により、現時点では予想できない新たな職業が生まれる可能性がある。このような状況の中で、学校に求められるものも多様化している。

3 スクール・ポリシー

（1）グラデュエーション・ポリシー（目指す生徒像）

- ① 高い学力・幅広い教養・柔軟な思考力を身に付け、世界や日本、地元秋田の課題解決に取り組む気概を持ち、多方面でリーダーとして活躍できる人物を育成する。
- ② 自ら課題を見出し、主体的に考え、探究し、論理的思考力・豊かな発想力・創造力を身に付け、社会に革新をもたらすことのできる人物を育成する。
- ③ 多様な価値観を柔軟に受容する寛容さを身に付け、他者と協働して高いレベルで成果をあげることのできる人物を育成する。

（2）カリキュラム・ポリシー（本校の学び）

- ① 生徒が進路希望を実現できる学習環境の提供（教育課程の編成）
 - ・新入生オリエンテーション「北雄合宿」や、外部講師を招いての進路講演会実施による進路情報収集機会の提供
 - ・ハイレベル講座や、生徒の希望進路に合わせた講座（TLC*、THC*等）の実施
 - ・「深い学び」を達成する授業の実施

*TLC：トップレベルチャレンジ
*THC：東北大チャレンジ
- ② 主体的に考え自ら探究する力を育む機会の提供
 - ・「知の探究」「理数探究」等、年間を通じた探究活動の実施
 - ・科学の甲子園、数学・科学オリンピック、英語弁論暗唱大会等、外部コンテストへの参加推奨による、多種多様な学習機会の提供
- ③ 柔軟性・協働性を育む機会の充実
 - ・生徒による三大大行事*の企画・運営
 - ・個々の能力を最大限に発揮できる部活動環境の提供
 - ・アメリカ研修「北雄の翼」をはじめとする国際交流活動の推進

*三大大行事：運動会、秋高祭、学級対抗

（3）アドミッション・ポリシー（求める生徒像）

- ① 主体的に判断、行動し、自主的な高校生活の創造のために努力する生徒。
- ② 学習成績が優秀で、高い進学目標をもって真摯に学業に取り組む生徒。
- ③ 部活動や生徒会活動等に意欲的に取り組み、高い次元で学業との両立を実現できる生徒。

II 5年間を通しての具体的な目標と取組

1 品性の陶冶

- (1) 「自ら考え行動できる生徒」を育てる。
- ① 将来設計に結びつく進路指導。
 - ② 外部講師による講話の実施。
 - ③ 学校行事での協力・協働。
 - ④ ボランティア活動への積極的な参加。
- (2) グローバルな社会でリーダーとして活躍できる人物を育成する。
- ① アメリカ研修「北雄の翼」や海外留学等、国際交流の推進。
 - ② 海外で活躍している各界のリーダーの講演会等を実施。

2 学力の充実

- (1) 授業等の更なる充実を図る。
- ① 日常的な授業参観と組織的な授業研究。
 - ② 難関大学レベルを意識した授業実践。
 - ③ 難関大学入試問題の分析・研究。
- (2) 主体的に進路実現に取り組む態度を育成する。
- ① LHRや面談の充実。
 - ② 進路資料「北雄」と卒業生の体験記「北雄(みちしるべ)」の有効活用。
 - ③ 進路通信「羅針盤」の定期的な発行。
 - ④ オープンキャンパスへの積極的な参加推進。
- (3) 進路目標の設定や学習方法、探究活動への取り組み方についての視野を広げる機会の充実を図る。
- ① 卒業生や著名人を招いての講演会等の実施。
 - ② 大学教員や予備校講師を招いての講演会等の実施。
- (4) 新しい大学入試等に対応する教育課程を編成する。
- ① 学習指導要領の改訂への対応。
 - ② 大学入試制度や受験科目等の変化への対応。
- (5) 外部の情報を活かした生徒の学力向上を図る。
- ① 他校との連絡協議会での積極的な情報交換。
 - ② 校内での進路検討会、情報交換会により、職員の共通認識を図る。

3 心身の錬磨

- (1) 社会的責任と規律を理解し、自律への意識を持った心身ともに健全でたくましい人間を育成する。
- ① 「敬天週間*」の実施。
 - ② 薬物乱用防止教室、情報モラル教室、交通安全教室、性教育講座等の実施。
- * 敬天週間：交通安全とあいさつの指導週間、年4回実施
- (2) 部活動の精選と充実を図る。
- ① 生徒数の減少に応じた部活動の精選。
 - ② 運動部は常に全国大会出場を目指す。
 - ③ 文化部は各種コンクールで全国大会入賞を目指す。
- (3) 生徒会行事や学校行事を更に充実させる。
- ① 企画・運営のすべての場面で生徒の主体性を活かす。
 - ② 生徒の活動を地域社会や県内外に広く発信する。

4 キャリア教育の推進

- (1) キャリア教育推進委員会の活動を充実させる。
- ① 教育活動全体における計画的、系統的なキャリア教育の実践。
 - ② キャリア教育の視点を踏まえた、個々の生徒の進路志望に応じた適切な支援。
- (2) 授業におけるキャリア教育の一層の充実を図る。
- ① 生徒が主体的に取り組む場面の設定。
 - ② 授業研修におけるキャリア教育の視点からの協議。
- (3) 社会的・職業的自立に必要な基礎的・汎用的能力を育成する。
- ① 新入生を対象とした「北雄合宿」の実施。
 - ② 協働的な探究活動「佐々木毅杯一知の探究コンテスト」の実施。
 - ③ 読書活動の推進。
 - ④ 英語検定等の資格取得、科学の甲子園、数学・科学オリンピック、英語弁論暗唱大会等への積極的な参加の奨励。
 - ⑤ PTAや地域、同窓会等の社会人講師の活用。